

名家連ニュース

令和2年2月20日(木)
発行：特定非営利活動法人
名古屋市精神障害者家族会連合会
会長 堀田 明
TEL/FAX(052)846-5576 NO.691号

精神疾患の理解と対応 第10回 事例検討会と連続講座のまとめ

2月18日(火)、総合社会福祉会館7階大会議室に68名が参加しました。今回は、事例検討会を行い、最後に連続講座のまとめがありました。以下その概要を記します。

事例検討会

Aさんの現在の様子を紹介し、15分間の個人ワーク、30分間のグループ討議を行いました。

実は、どの事例においても、答えはありません。相手を変えてやろう、病気を治してあげようではダメだと思います。その人のことを肯定できるようになることが大切だと思います。そのために、

- ① 本人とあなたの共通点をあげてみましょう。
- ② 本人が「悩み・苦しんでいること」は何だと思えますか？
- ③ 症状は、本人にとってどのような役割を果たしていると思えますか？
- ④ なぜ本人は症状や問題行動を、繰り返すのだと思えますか？
- ⑤ 本人のために、あなたなら何をしてあげますか？

図1

という5つのポイントを常に考えるようにしてください。

問題行動をなくすための話し合いは、誰も答えを持っていないから、実りがないと思います。例えば、患者さんに、幻聴がなかったら、何をしたいかと聞いて、幻聴のことはいったん忘れて、そのしたいことを実現するためにどうするかという話し合いの方が断然、実りが多いと思います。

連続講座のまとめ

本連続講座のテーマは、「知っていることと出来ることは違います、是非、変わっていきましょう。」でした(図1)。では、具体的に何が変わればいいのでしょうか？

医療、福祉、家族、地域は、患者とこれまでに一定の関係を築いてきました。それぞれ、治療の対象、支援の対象、患者、障害者として扱ってきました(図2下)。

こうした関係は、急性期には必要です。しかし、いつまでもこのような関係を続けていたら回復には至らないと思います。イタリアの精神科医療改革を行ったバザーリアは、**患者と別の関係性を築くことを目指しました**。「医師は単なる専門技術者でもエキスパートでもありません。薬を処方するのは医師の仕事ですが、**患者と別の関係性を築くことによって、患者の暮らしに意味を与えることが医師には出来るのです**。」と述べています(図2上)。

来年度も連続講座を担当することになりました。当事者・家族・専門職が、共に考え共に創る新しい形「コ・プロダクション(協同創造)」とは何なのか？一緒に考えていきたいと思えます。

(講座内容紹介：担当理事/広瀬)

